

展覧会

「没後50年 所蔵作品による小杉放菴展」

今年、小杉放菴(1881年 - 1964年)が没して50年の節目を迎える年です。当館が開設準備の段階から、20年以上の歳月をかけて収集を続けてきた放菴の作品の精髓を、前期と後期に分けて一挙に紹介します。特に、日本画を制作するための準備段階として描かれた素描作品を、日本画と合わせて展示します。これにより、西洋美術の強い影響を受け続けた日本の近代美術の流れの中で、あくまでも写実に基本を置きながら、新たな日本の絵画の創造を真摯に目指そうとした放菴の制作活動の本質と、その意義に迫ります。

ぜひ、ご来館ください。

会 期：前期 4月12日(土)～5月25日(日)

後期 5月31日(土)～7月13日(日)

休 館 日：毎週月曜日【5月5日(月・祝)は開館し、5月7日(水)に休館】

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

入 館 料：一般…720(300)円、大学生…510(200)円、高校生以下…無料

※()内は市民割引券を利用した際の料金です。

放菴センセイ、素敵な絵を残してくれて、ありがとね！



ジンジャくん



晩年の小杉放菴

今月の日光ブランドは「男体山・女峰山・太郎山・大谷川」

今月号から、日光ブランドに認定した地域資源を順次紹介します。市民はもとより、来訪した方が必ず目にする、「男体山(標高2,486m)」や「女峰山(標高2,483m)」をはじめとする日光連山。そして、そこから流れる「大谷川」。日光のストーリーはこの雄大な景観から始まります。

高い山には神が宿るとされ、奈良時代に勝道上人による開山以来、山岳信仰の対象となり、男体山や女峰山、太郎山(標高2,486m)をはじめとする日光連山。そして、そこから流れる「大谷川」。日光のストーリーはこの雄大な景観から始まります。



今市側から望む日光連山と大谷川

368m)にはそれぞれ、神様が祭られています。そもそも、日光という地名は、男体山の別名「二荒山(ふたらさん)」をニコウザンと読み、日光の文字を当てたとされています。

もし、日光連山が無かったら…。雄大な自然は育まれていたのでしょうか…。清らかな水は流れていたのでしょうか…。そして、日光は生まれていたのでしょうか…。

現在、多くの登山者が愛する地にもなっている日光連山。この景観は、千年以上前から、多くの人々を魅了してきた、とても貴重なものです。これからも多くの人々に愛され続けていくことでしょう。そして、この地で生まれ、この地で育ち、この地で暮らすこと。それは、私たちにとって奇跡といっても過言ではないのかもしれません。

また、男体山は日本百名山の1つでもあります。市内にはあと2つの山が日本百名山に選定されていますが、そのお話はまた今後。

ぶらり日光ブランド探訪 vol.1

くわしくは
総合政策課 ブランド戦略室 ☎(21)5131

進め！

地域おこし協力隊



くわしくは
地域振興課 地域振興係 ☎(21)5147

「地域おこし協力隊」を「存じですか？」

市は、過疎や高齢化の進む地域に、市外の都市部に住む若者を受け入れています。そして、都市住民ならではの新鮮な目線で地域活性化につながる活動をしてもらう、「地域おこし協力隊」という制度を導入しています。

平成23年度から活動を始めた地域おこし協力隊は、これまで足尾地域(2名)、栗山地域(4名)の2つの地域で活動を行っていました。今年の4月から、新たに三依地区で2名の隊員が活動を始め、合計8名となりました。

日光市を元気にするために全国各地から集まった地域おこし協力隊員への応援・ご支援をよろしくお願いします。

今月号から、各地域において個性豊かな活動を行う地域おこし協力隊を紹介していきます。

第1回は、今年の4月から、三依地区で活動を始めたばかりの2名の地域おこし協力隊員を紹介します！



かえ みく
蟹江美来隊員
(愛知県一宮市から転入)

はじめまして！ 三依地区といえ楽しくて面白くて良いところ！ と言われるように盛り上げたいと思いますのでよろしくお願いします！



なか い まさひろ
中井正幸隊員
(北海道札幌市から転入)

こんにちは！ 私は見ただ目によらず体を動かすことが好きです。見るもの全てが新鮮で、日々の発見の中、地域の活力となれるよう頑張りますのでよろしくお願いします。

連載

世界遺産 日光の社寺

教育委員会事務局 文化財課

日光市中央町15-4 ☎(30)1861

◎はじめに

今年は一社一寺の建造物群とその境内地が世界遺産に登録されて15周年に当たります。これらは、平成11年12月4日に、「日光の社寺」として、その名が世界遺産一覧表に記載されました。

東照宮陽明門に代表される社寺の華麗な建造物と荘厳な境内の景観に、これまでも多くの人々が魅了され、「おくのほそ道」をはじめめとした、国内外の数々の紀行文などで紹介されています。

日光山内は勝道上人の二荒山(男体山)開山による約1,200年の歴史を有しており、さまざまな変遷をたどり、現在の姿に落ち着いています。

そして、これらの歴史の全てを含んだ上で、世界遺産として評価されています。

この連載では、世界遺産を切り口として、改めて日光山内の歴史について触れたいと思います。なぜ世界遺産の候補に挙がったのか、どのような点が評価され、世界遺産に登録されたのか、

産に登録されたのか、登録されたことでどのような変化があったのか。これらのことを通して「世界遺産日光の社寺」の価値についての理解を深めていただければと考えています。

◎連載にあたって

世界遺産に限ったことではありませんが、国際的な取り決めの中で物事を進めていくためには、用語は誤解が生じないように厳密に定められており、長々しいものになりがちです。

基本である「世界遺産条約」にしても、正式名称は「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」といった長いものです。限られた紙面ですので、極力通称や略称を使用し、その場合は、"で表わすこととします。また、そのための解説も最小限にしたいと思います。

通称や解説抜きでも解りやすい表現を心がけます。興味のある方は、文化財課へお問い合わせください。